

清濁資料としての近松世話物浄瑠璃

野口, 義廣
九州大谷短期大学講師

<https://doi.org/10.15017/12101>

出版情報 : 語文研究. 44/45, pp.115-128, 1978-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン :
権利関係 :

清濁資料としての近松世話物浄瑠璃

野 口 義 廣

はじめに

前回の拙稿^(注1)においては、近松の浄瑠璃丸本における濁点の表記の実態を見、いくつかの問題について述べたのであるが、本稿では、更に引き続き、清濁資料としての面について、いささかの考察を加えてみたい。

いうまでもなく、近世の出版物には、濁点が、今日のように、厳密に付されてはいない。概して不足がちである。しかしながら、濁点の付され方の如何については、ここで取り扱う浄瑠璃丸本では、前回の拙稿でも述べたように、おおむね正確に付されているようなのである。そういった点からは、直ちには清濁資料とはなしいがたいけれども、諸作品における用例を帰納することによって、充分、近世期の浄瑠璃丸本が出版された当時の清濁の実態を明らかにしようものだと考える。

そして、丸本においては、他の語り物、例えば、平曲の譜本などに見られるような、ハスムV等の積極的な注記^(注2)がないにもかかわらず、そこに見られる表記がほぼ一定しているということは、解釈の

仕方如何によつては、丸本の清濁資料としての価値は、平曲譜本におけるそれよりも、優位に立つのではないかと思う。

近松の浄瑠璃作品における世話物の数は、時代物の四分の一である。そういった点では、世話物のみでいろいろと論ずるのは心もとないのであるが、時代物の用例をも加えることによつてより確かなものを目指したいと思う。それについては、又稿を改めたい。

一、調査資料について

ここで取り上げる資料は、近松作の世話物浄瑠璃二十四篇のうち二十篇である。祐田善雄氏作成の「近松年譜」^(注3)により、初演順に並べた。

- (1) 薩摩歌、宝永元年（一七〇四）、天理図書館蔵八行五十六丁本。
- (2) 心中二枚絵草紙、宝永三年、大東急記念文庫蔵^(注4)八行三十三丁本。
- (3) 卯月紅葉、宝永三年、大東急記念文庫蔵八行三十三丁本。
- (4) 堀川波鼓、宝永四年、「近松名作集」^(注5)上所収の複製、八行三十

丁本。

(5)五十年忌歌念仏、宝永四年、天理図書館蔵八行三十二丁本。

(6)卯月の潤色、宝永四年、大東急記念文庫蔵八行二十九丁本。

(7)心中重井筒、宝永四年、九大国語学国文学研究室蔵八行三十二丁本。

(8)丹波与作待夜の小室節、宝永五年、天理図書館蔵七行五十九丁本。

(9)淀鯉出世滝徳、宝永五年、天理図書館蔵八行四十丁本。

(10)心中刃水の朔日、宝永六年、天理図書館蔵八行四十二丁本。

(11)心中万年草、宝永七年、大東急記念文庫蔵八行四十丁本。

(12)冥途の飛脚、正徳元年(一七一)、桜楓社刊の複製、七行五十四丁本。

(13)長町女腹切、正徳二年、祐田善雄先生記念会の複製、八行三十七丁本。

(14)生玉心中、正徳五年、天理図書館蔵七行四十七丁本。

(15)鍮の権三重帷子、享保二年(一七一七)、大東急記念文庫蔵七行四十九丁本。

(16)山崎与次兵衛寿の門松、享保三年、九大国語学国文学研究室蔵七行四十三丁本。

(17)博多小女郎波枕、享保三年、大東急記念文庫蔵七行四十丁本。
天理図書館蔵七行四十丁本を参照。

(18)心中天の網島、享保六年、大東急記念文庫蔵七行四十二丁本。
桜楓社刊の複製、七行四十二丁本を参照。

(19)女殺油地獄、享保六年、新典社刊の複製、七行五十丁本。

(20)心中宵庚申、享保七年、九大国語学国文学研究室蔵七行四十

七丁本。

なお、以上の作品から引用するにあたって、次のような略号を用いることがある。

- (1)〔薩摩〕 (2)〔二枚〕 (3)〔紅葉〕 (4)〔堀川〕 (5)〔五十〕
- (6)〔潤色〕 (7)〔重井〕 (8)〔丹波〕 (9)〔淀鯉〕 (10)〔刃水〕
- (11)〔万年〕 (12)〔冥途〕 (13)〔長町〕 (14)〔生玉〕 (15)〔鍮〕
- (16)〔山崎〕 (17)〔博多〕 (18)〔網島〕 (19)〔女殺〕 (20)〔庚申〕

また、引用の際には、印刷の都合上、現行の仮名字体にあつたものが、仮名の「ハ・ミ」に関しては、これを存した。仮名遣等についても、一切手を加えていない。

なお、本稿の性質上、不濁点(○)を用いることがある。従つて、それは、半濁点ではないことを予めお断りしておく。

ところで、以上とりあげた資料は、全て山本板、あるいはそれに準ずるものである。^(注6)山本が専ら近松の諸作品を独占板行したという事情により、山本板を優先したことはいうまでもない。とりあげた作品は、七、八行本であるが、他の行数のもの、例えば、十行本との比較など残された問題もあるが、出版の順序としては、十行本よりも、七、八行本の方が先であったこと、又、十行本の出版には山本以外の書肆も参加しているなどの事情もあつて、板下清書者の問題^(注8)なども残り、両者の比較については今後にまらしたい。

二、作業の方法

清濁を中心に、読みに問題を持つ語彙をとりあげた。そして、とりあげた語の表記について、他の資料(日葡辞書・ロドリゲス日本^(注10)大文典)

との比較を試みた。キリシタン資料は、ローマ字書きである故、語の清濁が明確であり、又、出版された時期が江戸の極初期であるといった点など、本稿での比較にはふさわしいものである。

ところで、どういった語をとりあげるかということについては問題が残るのであるが、一応、私に問題ありと思われるものを選んだ。孤例のものについては、何とも言えないのであるが、参考のために、敢えてこれを捨てることをしなかった。又、比較資料に用例を見出しえないものについては、他のキリシタン資料を援用することによりいくらか解決する面もあるであろうが、今は、日葡辞書・ロドリゲス日本大文典の二つに限った。今後の調査にまちたい。

三、清濁語彙一覧

あいちやく△愛着▽〔女殺〕20ウ2(あいちやく)〔潤色〕20ウ8 Agiacu
あしびきの〔潤色〕15オ4 axibino
あだ△仇▽〔薩摩〕43ウ4〔紅葉〕5ウ3
〔堀川〕22ウ8〔丹波〕15ウ4
〔淀鯉〕21オ7・36ウ3・37ウ3
〔五〕15ウ4・25ウ7〔万年〕12オ5
〔冥途〕24オ2〔生玉〕36オ5〔博多〕20オ3〔女殺〕19オ4 Ata▽濁点を付した例も見られる。〔堀川〕5ウ7〔女殺〕38オ7(仇)又、あだ△仇▽あだ△徒▽混同した例も見られる。

あだ△徒▽〔薩摩〕21ウ4・21ウ4・31ウ6〔堀川〕23オ5〔五十〕1オ2
〔淀鯉〕23ウ7〔刃水〕18オ5・37ウ4
〔長町〕3ウ4〔生玉〕2オ5
〔女殺〕6ウ4 Ada▽(あだ)〔堀川〕2ウ4
あだかこ△徒駕籠▽〔潤色〕15ウ7
あだくち△徒口▽(あだ口)〔長町〕23ウ7〔網島〕3オ5
あだくらべ△徒競べ▽〔二枚〕29ウ4
あだごと△徒事▽〔庚申〕46ウ2 Adacoto
あだじょうるり△徒浄瑠璃▽(あだ上るり)

〔網島〕1オ7
あだな△徒名▽(あだ名)〔五十〕25オ2
〔網島〕4ウ6・37オ5
あだばな△徒花▽(仇ばな)〔生玉〕1ウ2 Adabana
あだぶし△徒臥し▽〔薩摩〕34オ1
あだぼれ△徒惚れ▽(あだぼれ)〔生玉〕18ウ7
あてごと△当言▽〔鑓〕7オ6〔山崎〕22オ2〔庚申〕26ウ6
あまたがり〔二枚〕4オ2 Amasagaru, Amasagaru

一、清濁を中心に、読みに問題をもつ語彙を、現代かなづかいにより表記し、五十音順にならべた。
一、見出語につづく記載事項は順次つぎの通りである。

- ①△▽本文に使われている漢字、または筆者の施した振漢字。
- ②() 本文の仮名遣。ただし、見出語と一致するものはこれを省略した。
- ③各資料の丁及び行数。
- ④参考とした資料・文献の記載事項(特にことわらない限り、日葡辞書による)。「ロ氏」とあるは、「ロドリゲス日本大文典」の略号である。(なお、「ロ氏」の例は、普通、日葡辞書にない場合採用した。
- (本一覽作製にあたっては、岩波日本古典文学大系「平家物語」下巻の「平家読み方一覽」を参考にさせていただいた)

ありがたい△有甲斐▽(有がひ)〔五十〕 20オ

9 Arigai

あわたし△慌し▽(あはた)敷〔五十〕

29ウ6 〔長町〕 33オ5 〔博多〕 21ウ

5 Anataxii

あんじ△庵室▽(潤色) 15オ5・17オ5

Anji

あんせん△安全▽(淀鯉) 40ウ8 Anxen

いいがいなし△言ひ甲斐なし▽(いひがひ

ない)〔薩摩〕 54ウ6

いきずり△生拘摸▽(淀鯉) 6オ1 〔長

町〕 7ウ7 〔博多〕 13ウ7

いくたま△生玉▽(刃氷) 37ウ8 〔庚申

〕 43ウ5

いとずき△糸薄▽(鑑) 2オ5 (いとず

すき)〔二枚〕 5オ5 ↓はなすすき△

花薄▽

いなかぎやく△田舎客▽(ひなか客)〔冥途

〕 10オ5 (いなかぎやく)〔女殺〕 34オ1

いりびたり△入浸り▽(入びたり)〔淀鯉〕

5オ4

うすぢゃ△薄茶▽(潤色) 20オ8 Vsugia

うぞぶるい△うぞ震い▽(うぞぶるひ)〔五

十〕 15オ1

うえごみ△植込み▽(うごごみ)〔薩摩〕 1

ウ1(植込)〔鑑〕 11オ5 Yegomi

うちぐら△内蔵▽(内ぐら)〔五十〕 21ウ3

〔冥途〕 16ウ1(内蔵)〔山崎〕 24オ6

うんちん△運賃▽(運ちん)〔鑑〕 45ウ6・

46オ1(運賃)〔鑑〕 46ウ1 Vagin

おおさか△大坂▽(大さか)〔二枚〕 3オ4

▽〔大〕に「ヲ」の仮名あり。〔潤色〕

6オ7・14ウ3・22オ6・23オ5・23オ

6・23ウ3 〔淀鯉〕 31オ5 〔冥途〕

48オ3・48ウ3・51ウ1 〔長町〕 15ウ

8・27オ6 〔網島〕 5オ1 Vozaca

おさか△大坂▽〔五十〕 19ウ6 〔刃氷〕

30ウ2

おじ△と△押し事▽(をしごと)〔長町〕 34

ウ7

おちうと△落人▽(刃氷) 36ウ3 Vochiuto

おと△い△兄弟・姉妹▽(をと△い)〔堀川

〕 1オ3 (おと△い)〔生玉〕 8オ5

Vototoi

おびたしい△夥しい▽〔薩摩〕 27オ1

Vobiataxii

おりがみ△折紙▽(折紙太刀)〔長町〕 1オ

8 (折紙)〔長町〕 12ウ6 〔山崎〕 38

オ7 Voricami

おりびたり△降り浸り▽〔薩摩〕 47ウ5

Vorifari

おんどく△恩徳▽(御おんどく)〔二枚〕 15

オ7・22ウ4(御恩徳)〔博多〕 31ウ4

(おんどく)〔刃氷〕 13ウ1 Vondocu

がい△害▽〔重井〕 11オ1 〔淀鯉〕 8ウ

8 〔博多〕 38ウ5 Gai

かいじょう△海上▽〔薩摩〕 47ウ3 Cajo

↓せきじょう△石上▽

かがし△案山子▽〔五十〕 15オ1 Cagax:

かがやく△輝かす▽〔薩摩〕 55オ4

〔重井〕 14オ4 Cagaxsua

かじぐら△貸蔵▽(かし蔵)〔山崎〕 11ウ2

かすきやく△精客▽〔二枚〕 8オ3

かたり△と△騙り言▽〔山崎〕 3ウ2・3

ウ4 〔女殺〕 28ウ3

かづら△髪▽〔重井〕 10オ5 Cazura

かわ△側▽(か△)〔網島〕 18オ7・35ウ1

がわと(がばと)〔潤色〕 26オ7 〔生玉

〕 47ウ3 〔博多〕 30ウ7 Gafato vo-

chita

かんおんぎょう△観音経▽(くへんをんぎ

やう)

〔紅葉〕 28ウ4

がんどう△強盗▽〔がんだう〕〔長町〕 20ウ

4

まじん△鬼神▽〔丹波〕 26オ1 〔鐘〕 31

オ1 Qjin, Qjxin

またばま△北浜▽〔淀鯉〕 32オ1 〔冥途

〕 9ウ1 〔北ばま〕〔紅葉〕 27オ7 〔

潤色〕 2オ7

まどく△奇特▽〔薩摩〕 24オ6・32ウ6・

49オ1 〔紅葉〕 9オ7・11オ5 〔淀

鯉〕 9オ7 〔刃水〕 32ウ4 〔鐘〕 16

ウ6・22オ7 〔山崎〕 27オ4 〔庚申

〕 5ウ5 Qidocu → じんへんきどく

△神変奇特▽

まぶね△貴船▽〔五十〕 24オ6

まようがい△境界▽〔きやうがい〕〔山崎〕

36オ4 〔女殺〕 20オ3 〔庚申〕 44オ

1 Qjogai

まよづけ△教化▽〔きやうづけ〕〔冥途〕 27オ

1 Qeoge

まよづら△行幸▽〔行幸〕〔鐘〕 24オ6

Quiogō

まよづめがお△興醒め顔▽〔けうづめ顔〕

〔長町〕 9オ2 〔けうづめ顔〕〔綱島〕 25

オ1 興づめ顔〔山崎〕 41ウ4 〔博多〕

23ウ2 Qiosamgano

まよほう△行法▽〔行法〕〔博多〕 14ウ7

Quidōbō

まよっと 〔重井〕 24ウ6 〔長町〕 4オ

6 〔博多〕 13ウ1 〔庚申〕 35ウ5

きんせい△禁制▽〔禁制〕〔生玉〕 9ウ7

Qinjai

くがい△公界▽〔冥途〕 28オ5 〔生玉〕

20オ4 〔くがい物〕〔冥途〕 26オ2 Cugai

くちくせ△口癖▽〔長町〕 28オ5 〔鐘〕

7オ1 〔山崎〕 6オ1 Cuchicuxe

くちずさみ△口遊み▽〔口ずさみ〕〔長町〕

1オ4 Cuchizusami 〔口氏〕 Cuchi-

susami

くどきこと△口説言▽〔鐘〕 48オ3

くどく△功德▽〔潤色〕 22オ1 〔重井〕

27オ6 〔万年〕 40ウ7 〔庚申〕 38オ

3 〔八くとくち△八功德地〕〔庚申〕 28

ウ1 Cudocu

ぐめん△工面▽〔薩摩〕 17ウ5 〔丹波〕

57ウ1 〔淀鯉〕 32ウ3 〔五十〕 15ウ

6・19ウ3・19ウ6 〔万年〕 25オ7

〔長町〕 5ウ3 〔生玉〕 7ウ7 〔綱

島〕 15ウ7・24オ6 〔くめん△工面〕

〔五十〕 6オ5 〔冥途〕 6ウ5

くやみごと△悔言▽〔重井〕 31ウ4

くりごと△繰言▽〔堀川〕 19オ3 〔鐘〕

36オ7 〔山崎〕 4オ2 〔庚申〕 21ウ

6 Curicoto

くろがね△鉄▽〔薩摩〕 13ウ8 〔刃水〕

17ウ1 〔くろがね〕〔鐘〕 28ウ5 Curogane

→ しろがね△銀▽

くろぐま△黒熊▽〔薩摩〕 7ウ1・8オ2

・8ウ5 → しろぐま△白熊▽

ぐんじゅ△群集▽〔五十〕 19オ6・26オ5

・27オ8・27ウ8 〔刃水〕 26ウ2

〔女殺〕 5ウ2・6ウ1・13ウ7 〔きせ

んぐんじゅ〕〔薩摩〕 17ウ5 〔二枚〕 2

オ5 〔紅葉〕 27オ6 〔潤色〕 2オ6

〔生玉〕 40ウ2 Cunjin

けだい△懈怠▽〔薩摩〕 11オ8 〔二枚〕

15オ6 Qedai

けでん△怪顔▽〔淀鯉〕 29ウ3 〔けでん顔〕

〔女殺〕 28ウ7 Qedensuru

げんせ△現世▽〔重井〕 29ウ5 〔丹波〕

49ウ3 〔博多〕 14ウ6・15ウ7

Qenje

げんぶく△元服▽〔紅葉〕26ウ5 〔潤色〕
 〕1ウ5 〔鑪〕24オ4 Genshucu
 こうちゅう△講中▽〔かうちゅう〕〔庚申〕31
 ウ3
 こうちゅう△強盗▽〔がうたう〕〔五十〕31オ
 4 Gōdō ▽〔がうたう〕〔生玉〕19オ6
 こぶく△降伏▽〔がうぶくあくま〕〔女
 殺〕17ウ6 Gōbucu
 こつりき△強力▽〔がうりき〕〔紅葉〕21ウ
 4 Gōriqi
 こつりょく△合力▽〔かうりょく〕〔潤色〕
 11ウ8 〔女殺〕38オ4 Cōriocu
 こくごじき△極彩色▽〔山崎〕2オ4
 こげん△御見▽〔長町〕29オ4・29ウ1
 こごせち△言種▽〔網島〕37オ4 Cōtocusa
 こごてい△言伝て▽〔薩摩〕31オ8 〔潤
 色〕23ウ1・24オ1・24オ6 〔冥途〕
 8ウ7 〔女殺〕21ウ7 Cotozute.
 Cotozute (こごてい)〔二枚〕29ウ8
 〔博多〕6オ2
 こごぶれ△事触れ▽〔事おれ〕〔二枚〕8オ
 1・9オ6 〔鑪〕37ウ4
 これざた△是沙汰▽〔是ざた〕〔女殺〕18ウ
 1

こんじょう△今生▽〔こんじゃう〕〔紅葉〕
 28オ1 〔潤色〕3オ1 〔生玉〕46オ
 7 〔鑪〕34ウ1 〔女殺〕35ウ1
 Conjo ▽〔今生〕〔網島〕17ウ1
 こんじん△今身▽〔重井〕27オ7・27オ8
 こくごく△西国▽〔重井〕24ウ3 Saicocu
 (西国商人)〔博多〕23ウ4 (西国通ひ)〔博
 多〕24ウ1
 こさふ△宰府▽〔博多〕9オ1・9オ2
 Dasai 〔口式〕Dasaino sot. → だざん
 ふ△大宰府▽
 こわめごと△細言▽〔ちやめごと〕〔薩摩〕
 13ウ2 Sasmegoto
 ちやがへ△差替▽〔紅葉〕24オ7 Saxigaye
 ちやうご△戯言▽〔鑪〕22ウ5・46ウ6
 Zarecoto
 さんがい△三界▽〔三がい〕〔五十〕23オ4
 〔丹波〕5オ3 〔冥途〕28ウ2 〔生
 玉〕7オ6 〔博多〕33ウ1 〔網島〕
 40ウ6 Sangai
 さんげ△懺悔▽〔五十〕32ウ1 〔刃水〕
 24ウ1 〔生玉〕43オ3 Sangue ▽〔ち
 んげ〕〔潤色〕9オ2
 さんざんに△散々に▽〔さんざん〕〔潤色〕

12ウ3 Sanzani ▽〔さんざん〕〔長
 町〕8オ6
 さんぼう△三宝▽〔三ぼう〕〔二枚〕
 18ウ2 Sanbo ▽〔三ぼう〕〔万年〕17
 ウ4 (三宝)〔鑪〕27ウ5 → なむさんば
 う△南無三宝▽
 しきがね△敷銀▽〔薩摩〕23オ8 〔紅葉
 〕6ウ3・7オ3 〔冥途〕31ウ7
 (敷銀)〔五十〕11オ4 (しき銀)〔冥途
 〕1オ6 (敷金)〔冥途〕32オ2
 しぐみ△仕組▽〔重井〕28ウ5 〔丹波〕
 59オ3 Xicumi
 じやごなう△仕損なう▽〔しごなふ〕〔五
 十〕20オ7 〔丹波〕44オ7 ▽〔しご
 こなふ〕〔五十〕31オ7 〔刃水〕2ウ4
 (しごこなひ)〔刃水〕32ウ8
 しもく△樟木▽〔しもくぢや)〔薩摩〕8オ
 4 (しもく町)〔鑪〕45ウ2 Ximocu
 じやらちんぼう△しやちら三宝▽〔刃水
 〕9オ3 Sanbō → なむさんばう△
 南無三宝▽
 じやべつ△差別▽〔薩摩〕20オ6 Xabet
 じゅう△主▽〔おしゅう〕〔二枚〕26ウ2
 Xū ▽〔おしゅう〕〔二枚〕26オ8・27オ

5 (しゅ)〔紅葉〕 20ウ7
しゅうじゅう主従▽〔しうく〕〔万年〕
40オ8 〔冥途〕 35オ7 Xijin ▽〔主
従〕〔鐘〕 25ウ4 (主従)〔博多〕 27オ2
▽〔主従〕〔潤色〕 28オ5 (しゅじう)〔淀
煙〕 13オ2
しゅうほく衆目▽〔しうほく〕〔女殺〕 43
オ7
しゅじゃか朱雀▽〔淀煙〕 1オ5 〔口
氏〕 Xuxacin (人名) Xujacu (年号)
じゅんそく駿足▽〔鐘〕 1ウ7
しゅうかん賞玩▽〔しゅうかん〕〔五
十〕 18オ8 Xóquan
しゅうじ生死▽〔しゅうじ〕〔二枚〕 33ウ
7 〔丹波〕 50ウ3 〔鐘〕 29ウ2 〔
女殺〕 50オ6 Xóji
しよじん正真▽〔正じん〕〔薩摩〕 4オ
6 〔万年〕 21オ7 〔網島〕 6ウ2 (〔
しゅうじん〕〔薩摩〕 43オ6 〔五十〕 3オ
8 Xójin
しよせき証跡▽〔しゅうせき〕〔女殺〕
50オ6 〔口氏〕 Kojecui
しよだい正体▽〔しゅうだい〕〔薩摩〕
39オ8・40ウ4 堀川〕 2ウ7 〔庚申
〕 46ウ5 (正だい)〔涙〕〔庚申〕 25ウ7

Xódimono ▽〔しゅうだい〕〔淀煙〕 8
ウ3 〔刃水〕 16オ5 〔長町〕 22オ3
しゅうだい〔正躰〕〔冥途〕 25ウ3 (正だい)〔長町〕
8オ1
しよだい所体▽〔薩摩〕 18ウ5
しらじらと白白と▽〔しらじらと〕〔薩
摩〕 20オ1
しるがね銀▽〔冥途〕 2オ3 Xirocane
しろくま白熊▽〔白くま〕〔薩摩〕 6ウ8
・8オ8
しんじよう身上▽〔しんじやう〕〔紅葉〕
16ウ4・21ウ3 〔重井〕 12オ3 〔淀
煙〕 5ウ8 〔網島〕 29ウ6 〔庚申〕
10ウ4 Xinxó ▽〔しんじよ〕〔紅葉〕
2ウ1
しんだい身代▽〔五十〕 20オ5 〔重井
〕 2オ2・7ウ5・9オ2・24ウ8 (御
しんだい)〔丹波〕 57オ3 〔淀煙〕 2ウ2
・7オ5・10オ3 〔万年〕 27ウ2 〔
冥途〕 30オ1 〔山崎〕 14オ1 〔網島
〕 3ウ5・6オ4・16オ7・20オ6・24
ウ4 (身躰)〔二枚〕 15ウ1 〔冥途〕 24
ウ1・28オ5 〔庚申〕 18オ1 (身代)〔
長町〕 12ウ7 (身だい)〔網島〕 15オ4
▽〔しんだい〕〔冥途〕 48ウ4 (身躰)〔堀

川〕 8ウ1
じんちよう展朝▽〔じんてう〕〔博多〕 14
ウ4 〔網島〕 42ウ7 (しんじようすぎ)
〔庚申〕 47ウ4 Ingió
しんびよう神妙▽〔しんべう〕〔網島〕 21
ウ1 Ximbeó
じんべんまどく神変奇特▽〔五十〕 22オ
5 Inben →きどく奇特▽
すくせ宿世▽〔二枚〕 30ウ1 Xucuxe
すぢまじ冷まじ▽〔庚申〕 9オ5 Susa-
majj, Susamaxj
すば(すば一山の大)〔万年〕 16ウ1
▽〔わきわ)しぬいてすぱとらはく〕〔万年
〕 27ウ8
すわと(すぱと)〔博多〕 30オ2 〔網島
〕 40ウ4 〔庚申〕 46オ1 ▽(すぱと
引ぬく)〔庚申〕 26ウ3
すもつとりぐさ相撲取草▽〔すまふと
り草)〔二枚〕 5オ3 Sumótorigusa
せいどう政道▽〔せいだう〕〔淀煙〕 2ウ
2 Xeito
せいほく西北▽〔山崎〕 36オ7
Xeiheu, xeiocu

せきじょう 石上 〔石上樹下〕〔薩摩〕

33ウ7 Xegixō →からじょう 海上

▽・しんしょう 身上 等。

ぜんごん 善根 〔五十〕 27ウ1 Lengon

せんざく 穿鑿 〔五十〕 14オ3 潤色

〔20オ5 重井〕 9オ2 丹波 39

オ6 淀鯉 28オ1・32オ4 刃水

〔36オ8 冥途〕 3ウ5 長町 3

オ5・21ウ5 鑪 40オ6 御せんざく

〔二枚〕 21オ3 淀鯉 17ウ4

Xensacu, Xenzacu

せんじょう 僧上 〔せんじょう〕〔淀鯉〕

29ウ4 網島 5オ6 女殺 45ウ

7 〔せんせう〕〔冥途〕 26オ2

ぜんぜ 前世 〔堀川〕 18ウ8 刃水

21ウ8 長町 14ウ5 Jenie

せんだく 洗濯 〔堀川〕 4ウ7 〔せんた

く物〕〔薩摩〕 29ウ7 〔すゝぎせんだく

〔山崎〕 39ウ3 Xendacu, Xentacu.

せんざう 千僧 〔千ぞう〕〔潤色〕 10オ4

→まんぞう 万僧 〔ひやくまんぞう

〔百万僧〕

そそぎ 注ぎ 〔重井〕 26オ8 Sosoji

▽〔そゝぎ〕〔博多〕 38オ7

そらごころ 空言 〔五十〕 13オ5 Sorago-

10

ぞんじょう 存生 〔ぞんじょう〕〔紅葉〕

7オ6 潤色 13ウ2 Zonjo

たかじょう 鷹匠 〔鷹匠〕〔庚申〕 8ウ2

〔鷹匠頭〕〔刃水〕 5ウ7 Tacajo

たかちお 高千穂 〔高ちおのだけ〕〔薩摩〕

45オ3

たかべい 高屏 〔薩摩〕 48ウ7 鑪

25ウ6 Tacabei

だけ 嶽 〔薩摩〕 45オ3 Dage

ださいふ 大宰府 〔網島〕 37ウ5 Dasai

〔口氏〕 Dasino sot →ぢいふ 宰府

たぞ 誰そ 〔薩摩〕 9ウ4 Taso

〔だれぞ〕 鑪 25ウ5 誰ぞ 〔重井〕 3

ウ8

たぞがれ 黄昏 〔二枚〕 5オ1 刃水

〔23ウ4 Tasogare doji

ただごと 直事 〔薩摩〕 49ウ2 Tadacoto

たまほこ 玉梓の 〔玉ぼこの〕〔女殺〕

3オ6 Tamaboco →やまほこ 山鉾

たれ 誰 〔薩摩〕 6ウ1・31オ8・32オ

2・45オ4・46ウ6・47オ1・50ウ1・

54オ5 〔二枚〕 3ウ1・10オ3・18オ

4・20ウ7・31ウ8・32ウ4 〔紅葉〕

5オ4・5オ4・14オ5・15オ4・20ウ

6 〔重井〕 3ウ8・19オ5・20オ8・

21ウ7・24オ8 潤色 6ウ7・12ウ

7・18オ6・29オ6 淀鯉 18ウ1・

29ウ7 〔刃水〕 2オ6・3ウ3・13オ

6・29オ2・34ウ5・37ウ8 〔万年〕

21ウ4・24ウ5 冥途 8ウ1・14ウ

3・22ウ7・41ウ6・48オ7 長町

5オ7・17ウ2 網島 2オ2・19

オ1・31ウ1・34ウ4・35ウ2・42ウ3

〔女殺〕 2オ6・6オ3・48ウ1 誰

〔丹波〕 5オ6 生玉 3オ1・20オ

5・24ウ3・30ウ2 鑪 2オ4・25

ウ1・25ウ1・31オ7・44オ2・48オ4

〔山崎〕 34ウ2 〔博多〕 39オ1

〔だれ〕重井 3ウ5, Tare

だんごう 談合 〔だんごう〕〔紅葉〕 21オ

2 〔重井〕 23オ1 淀鯉 32ウ4

〔刃水〕 33オ4 冥途 10ウ1・11オ

2 〔女殺〕 17オ2・24オ6 網島

26ウ3 談合 二枚 9オ5 生玉

10オ1・37オ1 鑪 10オ3・17オ7

〔山崎〕39オ7 〔博多〕29オ1 Darcó
▽〔談合〕〔山崎〕38ウ4

ちべさ〆千草▽〔二枚〕4ウ2 〔生玉〕

3オ4 Chikusa—やちべさ〆八千草▽

ちはちぢぢ〆〆〆〆振る▽〔潤色〕7ウ7

〔ちはちや古道具〕〔博多〕25ウ5 〔天満に年

ふるちはちやぢぢ〆〆〕〔網島〕9オ7 〔ちはちや

ふる程〕〔網島〕18オ4 chiyafuru

ちよつち〆〆〆〆▽〔ちよつち〕〔堀川〕29ウ

6 〔長町〕18ウ6 〔てうと〕〔生玉〕34

ウ6 Chôdo vtgu

ちよつち〆〆〆〆長夜▽〔ちやうや〕〔万年〕16オ

8 Chôya

ちりがみ〆〆〆〆塵紙▽〔潤色〕7オ2 Chirigami

つぎでんま〆〆〆〆継伝馬▽〔次傳馬〕〔丹波〕46

ウ6 Tenna

てつげ〆〆〆〆手付▽〔手付〕〔冥途〕24ウ7 〔手つ

げ〕〔冥途〕25オ5 〔手つけ銀〕〔重井〕8

ウ1 Tezunge

でんち〆〆〆〆田地▽〔田地〕〔二枚〕15ウ2 〔

冥途〕49ウ7 〔庚申〕20オ2 〔田地もち〕

〔二枚〕12オ7 Dengi

てんどう〆〆〆〆顛倒▽〔網島〕28ウ2 〔女殺

〕8オ2・46オ2 〔てんどう〆〆〆〆頭顛倒

▽〕〔山崎〕13ウ4 Tendô, Tentô

とうきん〆〆〆〆当今▽〔当今〕〔博多〕39ウ7

〔口氏〕 Tôgin

どうじゅく〆〆〆〆同宿▽〔万年〕8ウ6 〔同宿

〔長町〕23ウ3 Dôjucu

どうすり〆〆〆〆胸掏摸▽〔丹波〕30オ2・31ウ

2 〔どうすり〕〔網島〕13ウ7 〔いけ

どうすり〕〔網島〕29ウ2

どうち〆〆〆〆二枚〕17ウ1 〔堀川〕30ウ1

〔紅葉〕13オ1・30オ6・30ウ1 〔五

十〕20ウ8 〔重井〕10オ4 〔潤色〕

5オ6・5ウ1・22ウ7 〔丹波〕39ウ

4 〔淀鯉〕36オ7・37オ1・37ウ2・

39オ8 〔刃水〕18オ8・34ウ2 〔万

年〕16オ2 〔冥途〕49オ5 〔山崎〕

6ウ7 〔女殺〕26オ7 〔ごふど〕〔薩摩

〕40オ7・48オ8 Dôdo voturu.

▽〔ごうと〕〔刃水〕17オ7・18ウ2 〔

生玉〕33ウ3・38オ4 〔鏡〕8オ3・

27ウ6・38オ5 〔山崎〕32ウ4・41オ

4 〔博多〕26オ5・30ウ6 〔網島〕

14ウ4・24ウ7 〔ごうと〕〔紅葉〕30ウ1

〔潤色〕5ウ1 〔ごうと〕〔博多〕29ウ

7

どうほう〆〆〆〆同朋▽〔御〕どうほう〕〔薩摩〕6

オ3 Dôbô

とほん〆〆〆〆薩摩〕9ウ1 〔二枚〕18オ

5 Tofonto xitaru

どよめき〆〆〆〆動めき▽〔薩摩〕20オ4

とりさた〆〆〆〆取沙汰▽〔冥途〕43オ1 〔長

町〕13オ1 〔生玉〕11ウ1 Torisata

▽〔取さた〕〔丹波〕44オ3 〔博多〕24

ウ2 〔網島〕21ウ7 〔庚申〕27オ2

とりじめ〆〆〆〆取締め▽〔取じめ〕〔淀鯉〕29ウ

4 〔とりじめ〕〔庚申〕20ウ4

なかごと〆〆〆〆中言▽〔紅葉〕6オ1 〔刃水

〕2ウ2 Nacagoto

なむさんぼう〆〆〆〆南無三宝▽〔なむさんぼう〕

〔薩摩〕41オ7 〔二枚〕12オ1・28ウ7・

33ウ4 〔紅葉〕12ウ3・21ウ7・24ウ

1・30オ2 〔堀川〕23ウ6 〔五十〕

22オ1・29ウ7 〔潤色〕5オ2・21ウ

1 〔重井〕8ウ8・13オ4・15オ3・

30ウ7 〔丹波〕27オ5 〔刃水〕25ウ

3・42ウ2 〔万年〕6ウ2・40ウ1

〔網島〕42ウ6 〔なむ三定〕〔冥途〕6ウ

6 [鐘] 49オ5 Namusanbô ▽(なむ三ぼん) [網島] 28ウ1 →さんぼう
△三宝・しゃちらさんぼう△しやちら
三宝▽

にさんちよう△三町▽(三ぢやう) [紅葉] 25ウ8

にほんこく△日本国▽(日ほんこく) [長町]
27オ6 Nihon, Nippon [口氏] Nihon,
Nihonjin, Nippon, Nippon ichi ▽(日ほんこく)の表記からは(にほんこく)か(てっほんこく)か不明。

ぬかじき△類突き▽ [紅葉] 3ウ4

Nucazugi
ぬすびと△盗人▽(ぬす人) [二枚] 21オ2
Nusubito

ねぐら△罫▽ [網島] 42オ4

ねずりごと△ねずり言▽ [五十] 10オ7
(重井) 11オ2

ねだれごと△強請言▽ [冥途] 19ウ4

のうげ△能化▽(むみやうのうげ) [庚申]

43 ウ6 Noage

のじやうとう△野出頭▽ (野出頭) [庚申] 1ウ1

はいちゆう△敗亡▽ [網島] 25ウ6 [女殺] 34ウ3 Faimo

ばかり△計り▽ [薩摩] 54ウ4 [紅葉] 13ウ6 [潤色] 13ウ8 [刃水] 30ウ6 [淀廻] 13ウ4 [冥途] 49オ5

▽(ばかり) [淀廻] 40オ5 ▽(いきをばかりになく・こゑをばかりになく)の形が多い。

はかりごと△謀▽ [堀川] 28オ4 Facari-coto

はだかり△開かり▽(立はだか) [冥途] 4オ7 (立はだかり) [山崎] 13オ5 [女殺] 13オ6 [庚申] 9オ1 Fatacari

はたばたと(はた)と(う) [長町] 8ウ7 Fatafatio

はぐん△拔群▽ [堀川] 14オ7 Baccun

はなが△花香▽ [二枚] 23ウ3 [博多] 2オ6 Fanaga

はなすすき△花薄▽(はなすき) [長町] 29オ4 Fanazusugi →いとすすき

△糸薄▽・ひととすすき△一本薄▽
はん△万▽ [薩摩] 23ウ2

はんがた△晩方▽ [紅葉] 16オ4

ひがごと△僻事・僻言▽ [薩摩] 45オ8

[淀廻] 13ウ3 [冥途] 21オ4 [庚申] 3オ4 Figacoto

ひかた△干潟▽ (生玉) 30ウ7 Ficata

ひぞろ△秘蔵▽ (生玉) 34ウ2 (ひぞろ) [長町] 12オ1 [鐘] 7オ4 (御心ざう) [刃水] 5ウ8 (生玉) 5ウ8 (ひぞろ子) [刃水] 30ウ8 (ひざう娘) [鐘] 17ウ2 Fiso

ひち△漬ち▽ [淀廻] 25オ6 Fichi

ひっしゃりと [鐘] 25ウ2 [山崎] 12オ3

ひっしり [鐘] 25ウ5

ひつたり [紅葉] 15オ6 (生玉) 38ウ5 [潤色] 20ウ3 [女殺] 32ウ7

ひともどすすき△一本薄▽(ひととすすき) [鐘] 31ウ2 →いとすすき△糸薄▽

・はなすすき△花薄▽

ひとりごと△独り言▽ [薩摩] 9ウ3 [丹波] 11ウ4 [冥途] 45ウ6 [山崎] 40オ6 Florigoto ▽(独りごと) [網島] 18ウ2・35オ4

ひやくまんぞう△百万僧▽(百万ぞう) [潤

色) 10オ5 ↓せんぞう△千僧▽・ま
 んぞう△万僧▽
 びんぎ△便宜▽〔淀鯉〕 29ウ8 〔五十〕
 23ウ6 Bingui
 びんざら△編木・拍板▽〔びんざら〕
 〔五十〕 23オ5
 ふうせつ△風説▽〔女殺〕 50オ2
 ふじょう△不祥▽〔ふせう〕〔薩摩〕 10オ2
 〔紅葉〕 17オ8 〔生玉〕 32ウ2〔ふじ〕
 やう〔女殺〕 14オ5 Fuxô ▽〔ふじ〕
 やう〔博多〕 40ウ4
 ぶにん△無人▽〔無人〕〔博多〕 24ウ4
 Bunin
 ぶねん△不念・無念▽〔万年〕 9ウ7
 Bunen
 へいゆう△平愈▽〔平愈〕〔山崎〕 39オ1
 Feiyû
 へつみちう△别名▽〔へつみちう〕〔薩摩〕
 55オ1
 へんがい△変改▽〔薩摩〕 27ウ4 〔刃水〕
 〕 12オ6 〔万年〕 22ウ3 Fengan
 へんじ△片時▽〔紅葉〕 17ウ7 〔潤色〕
 9ウ1・19オ6 〔刃水〕 34オ4 〔万

年) 39オ7 Fexi
 へんぱ△偏頗▽〔紅葉〕 16ウ2 Fenta
 ほうすぎやく△坊主客▽〔坊主客〕〔長町〕
 16オ8
 ほそびき△細引▽〔細引〕〔堀川〕 2オ5
 Fosobiki
 ほんぶく△本復▽〔本ぶく〕〔女殺〕 17ウ2
 Fonbuku
 ほんぶしん△凡夫心▽〔淀鯉〕 13オ1
 〔凡夫心〕〔生玉〕 36オ5 Bonbu
 まえがみ△前髪▽〔万年〕 34オ6〔前がみ〕
 〔万年〕 32オ5 〔五十〕 11ウ1〔前が
 み殿〕〔長町〕 6ウ3 Mayegami
 まちかた△町方▽〔町がた〕〔冥途〕 20オ2
 〔長町〕 24ウ5 ▽〔町かた〕〔刃水〕 24
 ウ3
 まつだけ△松茸▽〔松だけ〕〔薩摩〕 50オ7
 Matoudage ▽〔松だけ〕〔庚申〕 42ウ3
 まんぞう△万僧▽〔万ぞう〕〔潤色〕 10オ4
 Manzôuyô ↓せんぞう△千僧▽・ひ
 やへまんぞう△百万僧▽
 みおつくし△落標▽〔身をつくし〕〔冥途〕

1オ2
 みころし△見殺し▽〔見殺し〕〔山崎〕 5オ
 4
 みすがら△身すがら▽〔身すがら〕〔網島〕
 5オ5・13ウ4 ▽〔身すがら〕〔網島〕
 5ウ1・6ウ6
 みすがらくり△水機関▽〔水がらくり〕〔生
 玉〕 6オ3
 みぞはぎ△溝萩▽〔刃水〕 41オ5
 みやづこ△宮子▽〔紅葉〕 27ウ7 〔生
 玉〕 23オ5 Miyazucotachi
 むげん△無間▽〔刃水〕 40オ4・40ウ1
 〔博多〕 13ウ3・14オ2・14ウ6・15ウ
 6 Mugen
 むやと▽〔薩摩〕 10オ2 Musato xiteiru
 むさぶりつく△貪りつく▽〔薩摩〕 37ウ6
 むさほりつく△貪りつく▽〔紅葉〕 12オ1
 Musabori
 むじつ△無実▽〔二枚〕 26ウ8 〔紅葉〕
 11ウ7 〔五十〕 32オ1 Muxit
 むしやぶりつく△むしやぶり付ッ〔鏝〕 26
 オ7
 むじつと△睡言▽〔五十〕 24ウ8 Mutcu-
 Roto ▽〔むじつと〕〔冥途〕 39オ3

むつまじ[△]睦まし[▽]〔五十〕 17オ7

Mutsumaxii[▽]〔むつまじ〕〔博多〕 31オ

7 〔網島〕 23ウ6

むなざんよう[△]胸算用[▽]〔むな算用〕〔山崎

〕 8オ3

めじうご[△]囚人[▽]〔五十〕 29オ4 Mexico

もうしすて[△]申し捨て[▽]〔申捨〕〔堀川〕 22

ウ2

もがりごと[△]強請り言[▽]〔長町〕 5ウ2

もたゆる[△]悶ゆる[▽]〔紅葉〕 29ウ6

Inochiuo notayuru, Modaye, uru, eta.

ゆちぐさ[△]八千草[▽]〔二枚〕 4ウ2 → ち

ぐさ[△]十草[▽]

ゆぶが[△]藪蚊[▽]〔五十〕 8ウ3

ちまさき[△]山崎[▽]〔山崎〕 34ウ7・35オ7

〔山崎〕〔淀鯉〕 15オ7 〔長町〕 4ウ

7・27ウ3 (山崎) 〔淀鯉〕 22ウ5

(山崎与次兵衛)〔山崎〕 11オ6・16ウ3

・17オ5・34オ7・34オ7・34ウ2 ▽

〔山崎〕〔山崎〕 24ウ3

ちまほこ[△]山鉾[▽]〔山ほこ〕〔堀川〕 27ウ3

・28オ1・30ウ7

ゆうつけちり[△]木綿付鳥[▽]〔ゆふつけ鳥〕

〔堀川〕 13オ7〔ゆふつけどり〕〔潤色〕

11ウ1 (らふつけどり)〔冥途〕 35ウ5

Yūfugedori

ゆづつまぐ[△]煮つ瓜櫛[▽]〔女殺〕 30

オ1

ようだい[△]容体[▽]〔やうだい〕〔庚申〕 23ウ

5 〔女殺〕 22ウ2 Yōdai

よめり[△]嫁入り[▽]〔薩摩〕 11ウ8・25オ4

・26オ7・26ウ2・28ウ5・30ウ5・30

ウ6 〔堀川〕 1ウ6 〔五十〕 8オ5

・8ウ7・9ウ7・10オ6・14ウ4 〔

淀鯉〕 15オ2 〔冥途〕 42オ2 〔鐘〕

33ウ3・35オ7 〔女殺〕 28オ4 (よめ

り道具)〔五十〕 4オ6 (よめり道具) 9

ウ5・19ウ4・30オ7 (よめりがや)

〔五十〕 9オ5 Yomeiri ▽ (よめ

てのければ)〔薩摩〕 12オ6

らごうらん[△]来迎院[▽]〔来迎院〕〔薩摩〕

10ウ3 Raico

らべちやく[△]落着[▽]〔丹波〕 44オ4

Racugiacu

りんごく[△]隣国[▽]〔隣国〕〔博多〕 40ウ6

〔庚申〕 9ウ3 Ringoku

れんみん[△]憐愍[▽]〔御れんみん〕〔丹波〕 53

オ5 Rennin

わきづめ[△]脇詰め[▽]〔五十〕 11ウ1

わびごと[△]詫言[▽]〔薩摩〕 18ウ3 〔五十

〕 17オ2 〔重井〕 21オ3 〔刃氷〕 16

ウ7・26ウ4 〔万年〕 15ウ4・26オ3

・30ウ2 〔冥途〕 31オ4 〔網島〕 31

オ1 (詫言)〔丹波〕 26ウ2 〔鐘〕 36

オ3 〔山崎〕 38ウ7 (お詫言)〔山崎

〕 41ウ7 (お詫言)〔博多〕 25ウ1

Vabico

四、

以上の一覧表からもわかるように、取り上げた語の多くが、日葡辞書・ロドリゲス日本大文典と一致している。これは非常に注目すべきことではないだろうか。従来、近松の浄瑠璃の諸作品が清濁の資料として供されることはなかったが、十分に資料たりうることで見てとれたことと思う。しかしながら、平曲などと違ってハスムVなどの積極的な注記がないゆえ、直ちには資料となしがたいのは、いうまでもないことである。

しかし、はじめに¹¹の部分にもべたように、積極的な注記がないにもかかわらず、表記がほぼ一定しているということは、やはり、丸本刊行当時の発音の状態を反映しているものと考えていいものであろうと思う。^(注12)

濁点の落ちているもの等については、いろいろな解釈が可能であろうが、板下清書者の仕事の仕方如何、あるいは、丸本の刷りの良さ¹³、などといった点を考慮すべきなのかもしれない。

板下清書者が、草稿に割合と忠実な仕事をしていると見られる点もいくつか見られるが、それらは、仮名の字体の範囲にとどまり、どちらかという、面倒であったらうと思われる濁点を付すことなどについては、忠実であったか否かなどということは実証しがた¹³い。しかしながら、前記一覧表の結果からすると、ほぼ忠実な仕事であったと考えてもさしつかえないであらうと思われる。

又、濁点に関しては、彫師の仕事の仕方如何を考えるべきなのであろうが、その事については、板下清書者に渡す段階の草稿、あるいは清書の書き損じ等といったものが残っていない限り、彫師の仕

事がどうであったかということは論じることには不可能のようである。

ところで、以上のような結果が出てくると、丸本を翻印する際にも、それらの表記についても十分留意しなければいけないことになり、私に濁点を付すなどということはあってはならないことである。ふり仮名のない漢字のよみを決定する際にも、やはり内部徴証によるべきである。翻印にあたっては、あくまでも、丸本のままだ望ましい^(注13)。

五、おわりに

以上不十分なが、近松の世話物浄瑠璃における清濁に問題のある語をとりあげたのであるが、もっとも、とりあげたものがその全てではないであらう。これらの問題については、丸本そのままの語彙索引等を作成することによって解決するであらうし、又、それらを通して、今まで気づかなかったさまざまな問題が浮かび上ってくることであらうと思われる。また、とりあげた語がどのような性質のものであるかについての問題、一語一語の語史などの問題も残されているが、それらについては稿を改めたい。時代物の用例をも加えることによって更に確かなものを目指したいものと思う。大方の御教示を願うものである。

〔付記〕

本稿における資料面に関して、天理図書館の御高配を賜ったことを謝するものである。

注

- (1) 「国語史料としての近松世話物浄瑠璃——濁点・胡麻点等の表記について——」語文研究43号。
- (2) 京大本平曲正節の解題。大学堂書店刊行の尾崎家平家正節の内容見本における奥村三雄先生の解説等参照。
- (3) 「浄瑠璃史論考」所収
- (4) 雄松堂刊の近世文学資料総論所収マイクロフィルムによる。(以下大東急記念文庫のもの全てこれによる)
- (5) 日本名著全集・江戸文芸之部・第四巻(大正十五年)
- (6) 近松浄瑠璃丸本(世話物)における半濁点の使用は、管見に入った限りでは次の八例である。
- 「よつばどのたへけを」(冥途)29オ2、「ぼんと町」(長町)16オ3、「ナギこく(するな)」(生玉)22ウ2、「愛へもばつとはもつし」(生玉)10ウ6、「りつばな大じん仕立て下さんせ」(山崎)6ウ4、「座敷に一ぱい入こんで」(博多)18オ1、「あいつハリつばずき」(女敵)36ウ5、「心一ぱい出かせしと」(庚申)9オ7
- (7) 一部、奥書のないものがあるが、小学館日本古典全集「近松門左衛門集」(一)に掲げている資料より同板なることを確認。
- (8) 丸本の書誌的な面については、次のものを参照。
- 横山正氏「操浄瑠璃書居の研究」
- 日本庶民文化史料集成・第七巻「人形浄瑠璃」概説二「浄瑠璃本の出版」(横山正氏) 祐田善雄氏「浄瑠璃史論考」
- 「近松浄瑠璃本奥書集成」大阪府文芸懇話会編。
- (9) 板下清書者に関しては、一体何人いたか不明であるが、丸本に使用されている「ひら仮名」字体の調査によりある程度まで解決するのではないかと考えている。
- ① 勉誠社刊のオクスフォード大学ボドレイ文庫本の複製。
- ② 三省堂刊(土井忠生氏訳)。
- ③ 多少位相のようなものがあるべきなのであろうか。今、たれ八難Vという語に例をとってみると、安原貞室の「かたこと」(巻)に「難といふべきを、だれと、たもじを濁りていふこと如何」との指摘があるのであるが、本稿では、(たれ)67例に対して(だれ)1例である。作者近松自身の規範意識のようなものがあるべきか。
- ④ 「天目にござ」(薩摩)4ウ7(ござ)は(ござ八難V)、「くすいを」(濁色)

11オ6(くすいを)は(くすいと八難V)、「神仏とくすい」(山崎)23ウ1(たつたふ)は(くつとふ八難V)、「不便さ」(山崎)39オ2(不便さ)は(不便さに)の誤まりである。以上はいづれもよく似た字体を見誤ったものである。ということは、割合と草稿の字体なども忠実に写していたものと考えていいようである。

④ 濁点の付し誤まりについては、一字分上下することはよくあるようである。従ってこれらについては許容範囲に入れてもいいであろう。しかし、二字分上下、あるいは、本来、濁点の来るべきでない所に来ている場合などはやはり誤まりと見なすべきであろう。

「木曾をばしって」(薩摩)5オ1(ばしって)は(はしって八走ってV)、「ともずれば」(二枚)30オ2は(ともずれば)、「目をばなさず」(二枚)5ウ3(ばなさず)は(ばなさず八放さずV)、「もちあれば」(二枚)17オ8は(もちあぐれば八持ち上ればV)の誤まりである。以上は誤まりの例の一部である。

⑤ 目下の所、翻印にあたって丸本のまゝという規範をとっているのは、祐田善雄氏校注の岩波文庫「曾根崎心中・冥途の飛脚五」のみである。しかしながら、印刷である以上、種々の事情により、刷形厳密にはなかなかないのである。その予防策として、本稿でとつたような八不濁点Vを用いるといったことを考えて見るべきではないだろうか。もっとも、この八不濁点Vだと、ある段階で、落ちないとも限らぬのであるが、初めから何もつけないで、読む者に、ここは濁点が落ちているのではないのだといった不要な疑問をいだかせないためにも是非不濁点を付けるべきではないだろうか。